

労災かわらばん

Vol.33 発行日/平成24年5月11日 編集/釧路労災病院新聞局

草野院長から労災病院の新しい職員への提言がありました。これは今年度の釧路労災病院の取組、指針でもあります。患者さんにもご一読願えればと思います。

ようこそ 釧路労災病院へ



院長 草野 満夫

この4月から本院にいらした職員の皆様、ようこそ釧路労災病院へ。ここ釧路では春の訪れが待ち遠しいが、院内を見れば、若い新芽のような伸びやかで初々しい新人職員に出くわし、今年も春が来たことを実感しうれしく思います。

当院で社会人としてのスタートを切ることになった新人職員の皆さんには、まず何よりも安全な医療行為に細心の注意を払うことをお願いしたい。我々にはミスは許されない。特に医療現場では、私は看護師になったばかりだから、私は研修医だから、といった甘えは絶対に通用しない。医療上の安全の確保は、新人の皆さんにとって最も重要な課題である。いかなる場合においても正しい手順を守り丁寧で慎重な仕事を心がけ、「最新の知識と技術に基づいた的確で親切な信頼される医療を実践する」という我々の理念の実現に、全力を注いでほしい。

また、当院のような総合病院での研修勤務は、最前線で医療の実践に関わる絶好のチャンスでもある。研修医、若手の先生、新人の看護師さんはこの環境を十分に生かし、医療人として将来の礎となる臨床経験を積んでほしい。今年、当院は従前からの地

域との交流・連携を更に発展させ「地域医療支援病院」として地域の開業医（かかりつけ医）との連携を強化し、患者さんにとってより親切で便利な医療環境の整備を目指すことを計画している。併せて、病院間でのITネットワークを活用した情報の共有化構想も推進している。患者さんにとってはよりの確な医療を受けることにつながり、この地域の医療レベルの向上に貢献できる仕組みとなるはずだ。かかりつけ医との連携も情報のIT化による共有も、地域の患者さんの命と健康を守る仕組みづくりの主体は、この病院の職員ひとりひとりである。新人もベテランも、それぞれを持ち場で実力を発揮し、力を合わせ、これらの取組を成功させてほしい。皆さんの活躍を大いに期待している。

また、今年には当院で働く職員の皆さんのための、働き続けやすい環境づくりの実現にも取り組んでいきたいと考えている。仕事と家庭、特に子育てとの両立ができる環境づくりは急務であり、中央の労災本部への働きかけを継続的に行いたい。更に、実現に向けては職種をこえて職員各位の理解と協力をお願いしたい。

新しい仲間と共に、患者さんにとってより良い医療、またよりレベルの高い医療を提供すること、地域医療をけん引するリーダーシップを発揮し、地域の信頼に応えられる医療機関としてさらに前進していこう。

わたしと労災かわらばん

初代編集長 アナログな吉田真子

今回は労災かわらばんの生い立ちについて紹介したいと思います。1999年の労災病院は新病棟の完成を控えていました。病院は新病棟と古い建築物が混在して、ある意味混沌とした雰囲気もありましたが、病院全体に活気が溢れていました。新病棟と旧外来棟は非常に長い仮廊下でつながっていて、まるで野戦病院のような日々を患者さん職員とも共有していました。

この頃は病院内のことを患者さんに伝えると、言うことはあまり普通のことではなく、患者さんの情報収集はもっぱらクチコミだったと思われま。あの長い廊下はある意味では自分たちの情報もうまく伝わらない事があり、これは、余所から来ている患者さんにはもつと訳がわからないのではないかと、この「かわらばん」を発行するきっかけとなりました。

当時は患者さんに情報を伝える手立て（今風にはツール）も少なく、インターネット上の病院ホームページがやとつくつかの先進的な都会の大病院で始まったばかりでした。先程も述べましたが、先程も述べた情報だけではなく、私たちが信じたほうがより良いのではないかと考えました。私たちは自分の病院の各科の医師の紹介、（病院は医師が良く交代します）。



初代からのかわらばん編集委員の薬局・梶原、検査科・遊佐と吉田先生。

は検査を行っているか。また病院は医師だけでなく色々な部門があり、各々の部門のことをもう少し知って頂いて、どのように力を合わせて患者さんの為に協力しているかということを通じて伝えたいと考えました。（かわらばん）のような方法はリニューアルには時間がかかり、発行時には情報が少し色あせることもない訳ではないのですが、アナログの暖かみのある伝言ができるのは魅力です。内野院長先生が創刊号のご挨拶をなされ、今年で13年目に入ります。編集のスタッフは創刊当時から約半分が交代していますが、病院のことを自分たちの言葉で伝えたいと、静かに継続する情熱を持って頑張っています。待ち時間に、このかわらばんに目を通して頂いている患者さんの姿を見ると、やはりこのような方法も必要だと思えます。心が伝わっているかなと自負しています。今後、ご愛読お願い致します。



編集長 吉田 真子

④今年20年ぶりに釧路に帰ってきました。下半身の悩み事は私にお任せ下さい。



外科部長 小林 篤寿

① 外科部長
② 桧山郡 江差町
③ 一般外科 消化器外科
④ 本年4月より勤務しております。当地の医療に貢献できるよう努力したいと思っております。宜しくお願い致します。



脳神経外科部長 穂刈 正昭

① 脳神経外科部長
② 北海道
③ 脳神経外科（脳血管障害）
④ 平成24年4月より釧路労災病院脳神経外科に勤務となりました。専門は脳血管障害全般とそれらに対する外科治療（脳動脈瘤に対するクリッピング術や頸動脈狭窄、脳主幹動脈閉鎖症に対する頸部内頸動脈内膜剥離術やバイパス術などです。これまで研鑽してきた技術や知識を道東地区の地域医療に貢献できるよう、質の高い医療を丁寧提供していきたいと思っております。



脳神経内科部長 堀内 一宏

① 脳神経内科
② 大阪府
③ 脳神経内科
④ 平成23年10月より釧路労災病院の一員として勤務しております。脳や脊髄、神経、筋肉の病気を診させて頂いております。道東地区の医療に貢献できる様、尽力させて頂きます。何卒宜しくお願い致します。

労災病院 ドクター紹介 Vol.28

- ① 職種
- ② 出身地
- ③ 専門・得意分野
- ④ 簡単な自己紹介患者さんへ